

414
A 2526

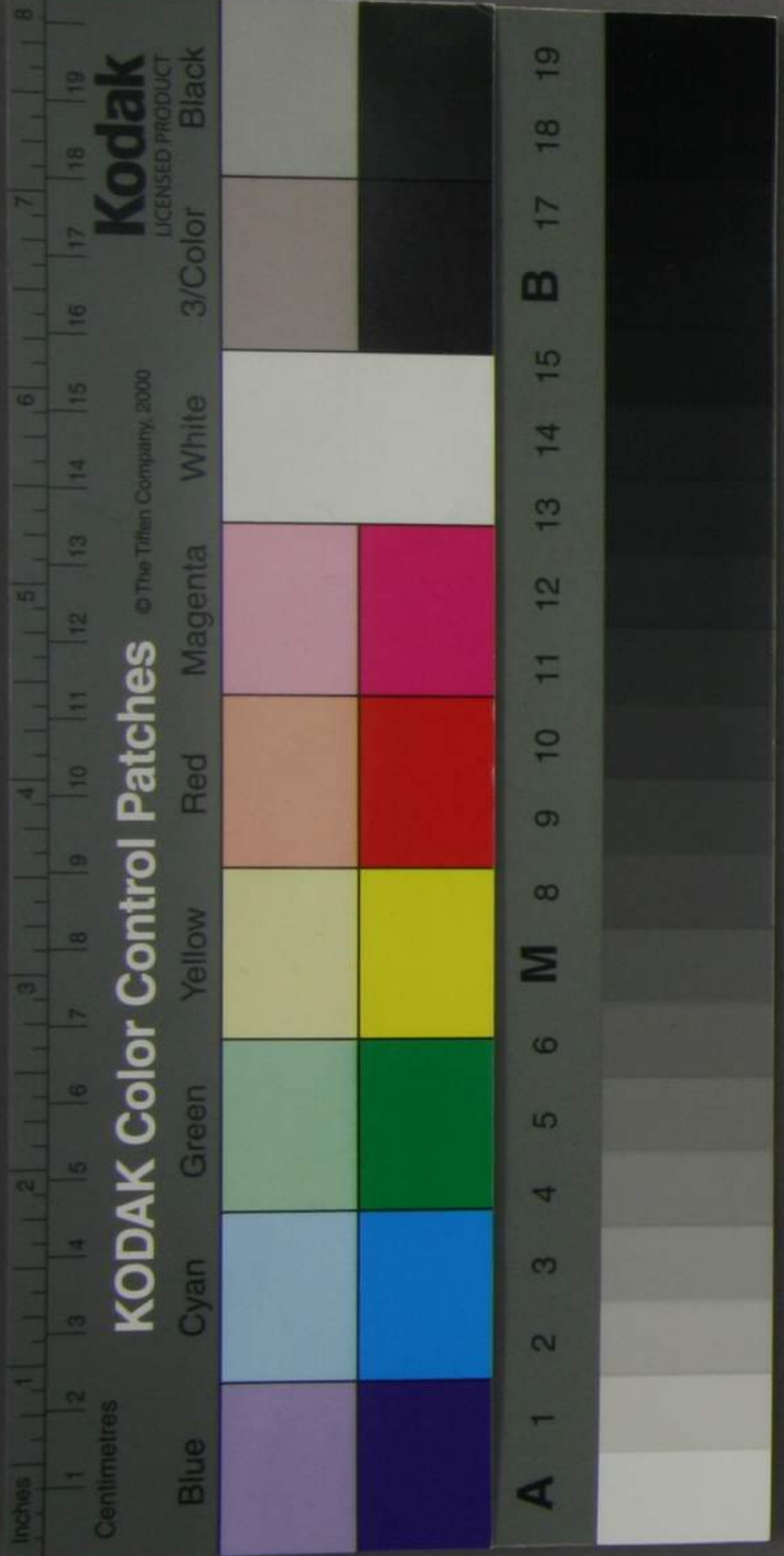
司行
石
批



一各出張所ニ於テ現行犯罪又ハ現行
エカ
ラサル犯罪ト雖一々其當リヲ取リ
確實ト認ムヘキモノヲ得以テ之ヲ裁
判官ニ交付ス然ルニ往々無罪決放ニ
至ルモノアリ
一斯クノ如キ不都合ヲ生スルハ多クハ在
獄中間頭等ノ宿好老賊ニ薰染誘
導セラレ百方詐術ヲ究メ遂ニ能ク罪
惡ヲ掩蔽シ一旦伏罪セシモ供状ヲ變
換シテ遂ニ無罪ニ至ルモノナリ

大正十一年四月

1930



一前條ノ弊ヲ除カレトスルニ尤ノニ件ヲ要スベシ
第一獄舎取締ノ方汰ラ改正スヘキ事
第二各出張、於テ現行ハ勿論其現
行ニアラサル犯罪ト雖モ當リツ取り確
然証拠ヲ得口供付結シテ裁判官ニ
送付シ裁判官之ヲ受ケ直ニ諒囚ヲ
召出シ其口供ヲ讀聞カセ異状ナケレハ
案ヲ立テ法律ニ照シテ處断スル事
斯クノ如クハ果シテ罪アルモノ辨術以テ
無罪ニ至ルナク又未決罪人ノ永ク在檻ス

ルヲ憂ヒナク裁判官ニ在テモ事煩ナラスシ
テ審判明白ナルヲ得ベシ
一公事訴訟ノ事件ニ付代言代書人ノ弊
害頗ル多シ就中金銀出入ニ於テ尤
甚シトス
一其弊ヤ事ノ熟談ニ及フヘキヲ却テ之ヲ
破リ又ハ回證文ヲ探リ出シ本人ノ望マサル
ニ出訴ヲ促スニ至ル頃日新ニ此業ヲ營ム
者益多シ是レ皆狡黠詐謀者流ノ利
欲ヲ貪ラン為ソ訴訟ヲ醸スモノナリ

一 裁判官ニ出訴スルニ官其事實ノ紛紜ヲ糾サズ唯其書面規則ノミヲ以テ判決シ遂ニ代言代書人ノ奸智狡辯ノ為ノ實情正理ノアルモノモ遂ニ之ヲ貫徹スルヲ得サルノ弊ヲ生セリ而シテ東京裁判所本年訴人ノ夥シキ已ニ貳万有餘ニ至ルト苟ニ此ノ如クハ政府ノ御不體裁ハ勿論人民ニ於テモ亦幾多ノ苦情アラシ

一身代限ノ事ニ於テモ其弊甚深シ何トナレハ豫メ其心ニ身代限リヲ期シテ以テ

貸財ヲ借り或ハ物品ヲ買掛ケ或ハ其家屋地所ヲ賃賃ニシ而シテ隠ニ之ヲ賣却シ既ニシテ所有ノ家具物品ハ之ヲ親族預ケ貯蓄ノ金ハ私ニ囊底ニ藏シ更ニ負債償却ノ道ナキモノ、如シ

一身代限ノ處分ニ至ルニ及テハ僅々ノ貨物ヲ債主ニ與フルノミニシテ已レハ親戚ニ附藉シ或ハ他人ノ名ヲ借リテ以テ家産ヲ立ルヲ得畢竟負債者ニ利益ヲ與ヘ債主ニ損失ヲ加フルニ至ル甚允當ノ處分ニ

アラス此其策ヲ防クノ方添モ亦設ケサルヘカ
ラス

一凡ソ人民ノ交際ヲ協和シテ争ヲ詔ナカラシム
ルモノハ行政ノ要務トスル所ナリ故ニ一旦
紛紜ヲ生スルアラハ直ニ裁判所ニ出訴
セス必ス先ツ警視出張（親シク申出サレハ）和解ヲ取扱
カハヒムヘシ出張所ニ於テハ其事實是
非曲直ヲ詳察シ懇切ニ理解シ而シテ其
和解ヲ承諾セサルハ初メ所裁判所ニ出
訴セシメハ前条ノ如キ詐計偽謀ニ陷

リ困苦スルノ弊害ヲ除ク得ヘク而シテ裁
判所ニ出訴スルモノ現今ノ數三分ノ二ヲ減
スルニ至ルベシ然レハ方今國家多事ノ日ニ
際シ更ニ區裁判所ヲ設クルヲ須ヒヌシテ
治安ノ妨却テ其之ヲ設クルハ勝ルモノアラ
ントス

一拷問ヲ廢スルノ議ハ條理ニ於テ尤然リトス
而シテ遽ミ之ヲ廢セント欲セハ帝ニ惡人
僥倖ノ門ヲ開クノミナラス遂ニ國家ノ安
寧ヲ破リ其害言フニ勝フヘカラサラントス

故、拷問ハ未タ遽カニ之ヲ廢スヘカラサルナ
 リ
 今ヤ國法人ヲ罪スル口供結案ヲ以テシ確証
 アリトイヘモ白状セサル者ハ之ヲ罪スルヲ得
 ズ而シテ檢職及ヒ陪審官ノ設ケ証告又ハ
 告訴告発等ノ法全ク未タ備ハラズ人民ハ
 協同シテ惡ヲ除キ良ヲ扶クルノ公義ヲ知
 ラス斯ノ如キ國法ト人情トヲ以テ一向ニ拷
 問ヲ廢スレハ罪人ハ奸詐ヲ以テ法網ヲ脱
 スルヲ謀リ巧ニ其痕跡ヲ銷スヘシ然ル_所ハ

謀故殺傷放火等ノ大罪惡アルモ現行ヲ
 認ル等ノ外遂ニ其犯人ヲ糾治スルニ由ナ
 シ況ヤ國事犯ノ如キ隱謀密討ノ者ニ於テ
 ヲヤ殷鑒遠カラズ喰違ノ變深ク顧ミサル
 可カラサルナリ

口上ノケ修和

一 区裁判所御取建ニ付テハ取締向ニ付故障之
レアル事

一 区裁判所ヲ置クハ行政ニ能觸スルノ害抜事ノ
害ヨリ甚シカルヘシ

一 海陸軍兵隊違註罪ヲ犯シ且暴動ヲナスハ
処分方区裁判所ニテハ自然届カナル意アリシ

一 莫大ノ入費ヲ出シテ区裁判所ヲ設ケ如何ナ
ル益アルヤノ事

一 当令取扱ノ義ニ付如何ナル弊害アル哉ノ事
一 害モナク益モナキニ目今國事多端ノ際莫太

ノ費ヲ掛ケ只々ニ改革ヲ好ム如何ナル事

警視ノ權ニ誇カルト云推論

島本佐久間大東等代言人社ヲ結ヒ大ニ懲

獎アル云々ノ事

島本等代言人社云々ノ弊ト戸長所用掛口弊

ト其害同日ノ論ニアラス甚仰國憲ニ關係

スル事

本年訴訟ノ多キト已ニ二萬有餘ニ及フト少

斯ノ如キ件數ナルが故ニ裁判所ノ事務繁雜

ニ時日ヲ費シ遂ニ人民代言代書人等ノ為ノ

多分ノ入用ヲ費ス弊アリ

訴訟數件ニ及シ其ハ裁判官粗漏ニ涉リ遂ニ

行違ホノ不都合有之由事

訴訟人控所へ竊盜入込時ニ紛失物ホアルハ全ク

繁雜ヨリ生スル弊ニシテ甚不体裁ナリ

訴訟ノ多キ事ハ地方行政官吏ノ面カサル所

以ニシテ裁判官ノ責ニアラス

辰年七月ヨリ市中取締御取立相成其効

不少追々御變革遂ニ今般警視廳ヲ被置探

索筋ハ勿論罪人調方等ニ至テモ未タ別段差支ノ

改言見聽

廉ハ無之然ルニ今区裁判所ヲ設クルハ得失如何ノ事

一 區裁判官ハ事實ノ源由ヲ不知只ニ証拠物成規ノミヲ以テ論シ調フルキハ空日ヲ費シ永ク在檻スル憂ヲ生スヘキ事

一 出張所ニテ取扱フキハ事實ノ源由ヲ探知ニ事未発ニ知テ是非曲直ヲ探リ得出訴スルキハ忽チ之レヲ理解シ教諭ヲ加ヘテ紛紜ヲ止メシム故ニ許訟等ハ必ス減少スル事

但証拠ナキ罪人ト虽モ探索上見込アル罪人輕ニ

敷之レヲ放ツナク其源由ヲ知テ丁寧ニ探索ヲ尽スノ道アルナリ

一 區裁判所ニ於テハ素ヨリ成規法律ヲ主トシ輕カ成規ニ適ハサルキハ採用セス又教育ノ道更ニ毎之自然人民正理ノ情意貫徹セサル憂アリ

一 行政警察上於テハ先ツ教育ノ道ヲ旨トシ聽訟等ノ成規ヲ始メ盡ク教諭シ知ラサルモノハ教テ後チ之レヲ糾スノ權アリ故ニ實地不得止成規法律ヲ以テ処分スヘキ事件ノ外ハ其情実ヲ

關テ理解ヲ加ユルナリ故ニ人民交際上紛
紜ハ自然減少スル事

出張所ニ於テ事務取扱フキハ一出張所ニ三
人ヲ加ヘ都合十八人官負ヲ増スキハ必ス事
務相運ヒ又入費モ減少スル事

大區出張所増加スル官負ハ元換事、花解部ノ
内ヨリ人選採用ノ事

各大區戸長町用掛給料一ヶ月三万円ニ至ル
由斯ノ如ク人民ヨリ費用ヲ取立其扱フ必ノ訴
訟事件等ニ至テハ甚世話不行由ナリ故ニ小事

件ノ訴訟多キナリ

今此ノ戸長町用掛リヲシテ各出張所於テ
使役シ訴訟ノ源由等ヲ搜索セシメ或ハ理解
ホヲ加ヘナセ親シク下情ニ付テ取扱ハシムルキ
ハ下民無用ノ入費ヲ為シ訴訟ホニ及フモノ随テ
減シ人民大ニ便利アルヘシ

戸長町用掛リノ弊ハ各出張所於テ監視シ之
レヲ糾シ責ムルキハ旧弊ノ如キ害ハ決シテ之
レナカルヘシ

出張取ハ勿論扱所等ニテ訴訟取扱フキハ当

人又ハ一族ノ内又ハ所用掛ヲ以テ 訴状為差出代
言人等ハ決シテ用ヘサル事

但訴訟入費ハ決シテ所公差出ト事尤哉
判所ハ此限ニアラス

卷一 示 履